

慰霊祭 円山英昭	2
公認心理師取得報告	3
デイサービスセンターウィークリハのご紹介	5
熱烈応援 小田和孝	5
がん治療サポートチーム 浅羽宏一	8

高知医療再生機構 2019年度専門医養成支援事業



高齢者を診る・識る・癒す —日常診療での clinical pearl— を開催して

社会医療法人近森会 学術担当理事 土居 義典

第1回 「認知症の予防と共生」 「高齢者脂質異常症の管理 — EWTPIA75 の 結果をふまえて」	第2回「新ガイドライン JSH 2019 に準拠した 高齢者高血圧管理の 考え方と実践」	第3回 「脳卒中循環器対策基本法と 最新の脳卒中急性期治療」	第4回 「高齢者診療における 注意点 —腎臓内科の立場から—」
 東京都健康長寿医療センター 理事長 鳥羽研二先生	 虎の門病院 院長 大内尉義先生	 大阪大学大学院 総合ヘルスプロモーション 科学講座 教授 神出計先生	 国立循環器病研究センター 副院長・脳血管部門長 豊田一則先生
 日本医科大学大学院 腎臓内科学分野 大学院教授 鶴岡秀一先生			

超高齢化に対応できる総合内科医

近年、社会の高齢化が進み、医療の現場では高齢者の multi-morbidities や予備能の低下への理解とともに、患者さんの超高齢化に対応できる、総合内科医としての考え方が重要になってきています。

大学は専門領域ごとの縦割り教育が主

しかし大学における医学教育では、各専門領域ごとの縦割りの教育が、さらに疾患ごとに行われています。一人の患者さんが多くの疾患を有する multi-morbidities の概念すら教えられておらず、現在の社会の高齢化に則した教育にはなっていません。

さらに卒業後の2年間の初期臨床研修もその延長線上にあり、専門領域ごとの短期のローテーションをくり返して、自分の専門性をさがすことが興味の中心になっているため、



包括的な高齢患者理解が出来ているとは思われません。

包括的な高齢者の患者さん理解を補完するために

そこで、本年度のシリーズ企画では、「高齢者を診る・識る・癒す：日常診療での clinical pearl」と題して、認知症の予防と共生、高齢者脂質異常症の管理、高齢者高血圧管理の考え方と実践、最新の脳卒中急性

期治療、腎臓病：高齢者診療における注意点という高齢者の日常診療の中で重要と思われるテーマをとり上げて、5講演を通して、各領域の我が国の第一人者の先生方に超高齢者の診療の問題点と対策のポイントを解説してい

たきました。

来年度も引き続き、専門性だけでは解決できない高齢者の診療上の問題点について医師・医療スタッフの理解が深まるように、シリーズでの講演を企画したいと考えています。来年度も多くの若手医師・医療スタッフの参加を期待しています。

だい よしのり



病理解剖させていただいた 16 柱の御霊の 御冥福をお祈り申し上げます。

近森病院 病理診断科 部長 円山 英昭

病理解剖に関して

今回の第 6 回慰霊祭では、第一に、昨年（平成 31 年）1 年間に本院で病理解剖させていただいた 16 柱の御霊の御冥福をお祈り申し上げます。

あわせて、深く、大きいお悲しみの中、最愛の御家族の解剖を御承諾いただいた御遺族の皆様方の尊いお気持ちに心からの感謝の念を捧げたいと思います。

①「剖検輯報」：わが国では全国の大小の医療施設で実施された病理解剖の結果は日本病理学会監修の下、剖検輯報として、年度毎に集計され 1974～2017 年の 44 年間で、総計 1,159,464 人の皆様の解剖結果は世界でも有数の膨大な医療データとして活用されています。

②「当院での病理解剖」：当院では 1973 年から、これまで 410 柱の皆様方の病理解剖を実施させていただきました。

③「初期臨床研修制度」：わが国の医学部卒業直後の臨床医師研修制度は、平成 16 年度から根本的に改正され、この新制度では卒後 2 年間の研修期間中に、他の多くの臨床項目の他に、病理解剖に関連する事項も必修項目の一つに新たに加えられています。

私達は、患者さんに接する医療人として、病理解剖から学んだ知識や経験を最大限に活用し、より完全で、より適切な医療の実践に努めます。合掌。

えんざん ひであき



3月の歳時記

つくし

近森リハビリテーション病院
作業療法科
西内めぐみ



つくしを見ると春の訪れを感じます。花言葉は「向上心」「努力」「意外」「驚き」。この花言葉は、つくしの成長する様子が現状では満足しない「努力」の象徴となり、すぐに成長する様子が「向上心」となったようです。また昨日まで何もなかった所に突如姿を現すことから「意外」「驚き」という言葉になりました。昔はつくしを取って、夕飯の一品にしてもらったことを思い出します。にしうち めぐみ



● 近森看護学校通信 40 ●

壮行式

2年生 寺田 葵

看護師国家試験に向かう 3 年生に少しでも気持ちを和らげて臨んで頂きたいという思いで、「壮行式」を

実施しました。

社会医療法人近森会の近森正幸理事長、寺田管理部長から 3 年生に向



けて熱いエールが送られました。1、2 年生からは応援歌、応援のメッセージを込めた絵馬やキットカット、合格鉛筆等詰め合わせた袋がおくられました。



最後は教員を含め、在校生一同でアーチを作り、3 年生をバスまで盛大に見送りました。

てらだ あおい

在籍4名全員が公認心理師取得



左から西森さち、和田寿美、鹿間明子、北川のぞみ

2017年に「公認心理師法」が施行され「心理職の国家資格」が実現しました。近森会の心理職4名は、2018年に実施された第一回国家試験で「公認心理師」を取得しました。主な職務は①心理的アセスメント②支援を必要としている方への助言、援助③支援を必要としている方

の関係者への助言、援助④心の健康についての普及です。

業務と並行しての受験勉強は大変でしたが、取得できほつとしました。時間の経過とともに改めて、責任の重さなど感じています。

近森リハビリテーション病院

障害を抱えた患者さんが
安心して生活できるように

近森リハビリテーション病院 臨床心理室

主任 和田 寿美／西森 さち

リハビリテーション病院では、主に脳損傷後の回復期（入院）から生活期（外来）の患者さんに介入します。身体機能の障害や高次脳機能障害を抱えることで、日常及び社会生活への影響だけではなく、同時に心理的变化をもたらすことがあります。患者さん自身を理解するためにアセスメント（観察、面接、評価等）し、他職種と連携しながらの神経心理学的リハビリテーションや心理面接などを行い、生活やリハビリテーションに安心して取り組めるよう支援します。また、ご家族の安心を支え、地域との連携を図り、高次脳機能障害についての社会的理解の促進も重要な業務です。こころに触れながら、その人らしく生きることのお手伝いをしていきたいと思ひます。

わだ すみ／にしもり さち

近森病院 総合心療センター

チームで支援

近森病院総合心療センター

北川 のぞみ／鹿間 明子

総合心療センターでは心理室とデイケアパティオに1名ずつ配属されています。心理室の業務は心理面接やアセスメント、リエゾンチーム活動などです。リエゾンチームでは医師、看護師、ソーシャルワーカー、作業療法士と共に、精神科以外に入院されている方に対して支援を行っています。パティオではうつ症状などで休職している方へ作業療法士や看護師と共に復職のためのリハビリをしています。又ご本人への支援に加え、勤務先、関係機関との調整なども業務の一つとなっています。ご本人を支えるチームの一員としてこれからも日々研鑽していきたいと思ひます。

きたがわ のぞみ／しかま あきこ

お弁当拝見 80 変わり映えしない弁当！



近森リハビリテーション病院
6階病棟東
看護師 須賀 麻弥



「お弁当のおかずには海のものや山のもの、赤・黄・緑色のものが入れば栄養のバランスが保たれる」と小学校の時に読んだ本に書かれてあったことを何となく覚えていて、3色揃うと安心します。

お弁当作りに対する熱量は少なく、メイン・サブ・隙間埋め各3品程度のわずかな献立からピックアップしているので、昨日と今日のおかずは違うけれど、だいたいいつも見たことのあるものばかりになってい

ます。

栄養のバランスも大切だけど、実は「茶色いおかずが一番おいしい」と思っています。 すが まや

2019年米国リウマチ学会参加報告

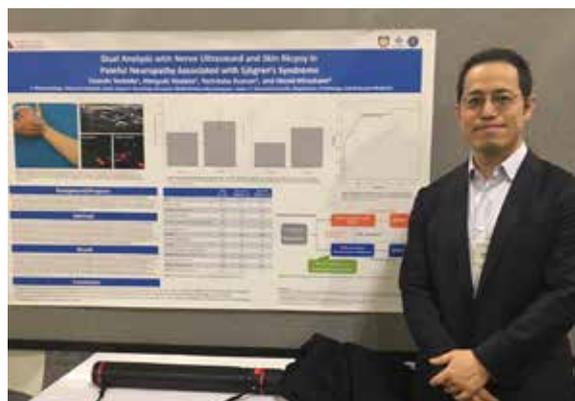
近森病院 リウマチ・膠原病内科

科長 吉田 剛

2019年11月9日-13日、米国アトランタで開催されたACR / ARP Annual Meetingに参加してきました。急速な進歩を続けるリウマチ学において、本学会は世界中から2000を超える演題が報告され、リウマチ学の現在と未来が凝縮した内容となっていました。

我々の施設からは、Dual Analysis with Nerve Ultrasound and Skin Biopsy in Painful Neuropathy Associated with Sjögren's Syndrome

という演題を報告しました。シェーグレン症候群の末梢神経障害の診断においてgold standardである皮膚生検に比較して超音波検査の有用性を検討し、多くの専門家と議論を深めることができました。末梢神経系に限らず、筋骨格超音波は関節・腱附着部・骨格筋といった部位を包括的に評価できるツールとして、今後さらに拡大することが期待されます。



特に、関節リウマチに高頻度に合併するサルコペニア／フレイルの診断、炎症性筋疾患の診断と治療効果判定においては当科でも重点的に進めていく方針としています。

よしだ たけし

ハッスル研修医

こんにちは。東京から高知に来て、研修医生活も早1年がたちます。大学時代に近森病院で2週間実習し、ここのチーム医療は本当にすごいなと思いました。研修医になり、多職種の方々と、実際にチームの一員として一緒に働くことに感謝しつつ勉強させていただいています。

どんなに大変なときでも思いやりの気持ちをもって患者さんを救える医師になりたいと思っていますが、なかなかできていないのが

高知はあたたかい



現状です。残り1年でまずは知識も技術も基本をしっかり身につけ、患者さんに最善の医療を届けられ

初期研修医 一年目 梁瀬 瑛蘭

るように日々励んで参りたいです。

高知は気候が暖かくて人も温かくて、まだホームシックにはなっていません。アンパンマンをかいたやなせ たかしさんと名字が同じ読み方であったり、魚梁瀬(やなせ)ダムであったり、高知にはなにかとご縁があったのかなと思っています。

いたらないところばかりですが、今後ともご指導のほどよろしくお願いたします。

やなせ よんらん



近森会
保育室 そると

「鬼はそと～！福はうち～！」

2月3日、今年も「そると」に鬼がやってきました！豆の代わりにカラーボールを精一杯投げている楽しい子どもたちでした。



デイサービスセンター ウィークリハ

クリニック探訪 特別編

〒780-0833 高知市南はりまや町一丁目3-7
サンコート南はりまや1階/はりまや橋から南へ徒歩5分
電話 088-821-9322 FAX 088-821-9323



代表 ● 今田智大
561.5.28 生
趣味 ● 野球

令和元年9月11日、南はりまや町にデイサービスセンター ウィークリハをオープンしました。各利用者さんは理学療法士による個別のリハビリやマシントレーニング、屋内外の歩行訓練など活動的に参加されています。半日利用でも個別入浴できるのは魅力の一つでしょうか。また、栄養補助食品を提供することで、身体づくりのサポートをしています。

ご利用に限らず介護相談も受け付けていますので、お気軽にご連絡下さい。

営業時間 9:00 ~ 16:15
定休日 日曜日 (祝日営業)

利用できる方
要介護認定1~5を受けている方



▼看護師、理学療法士、介護福祉士、生活相談員が在籍



「乞! 熱烈応援」

その指、つなぎます



近森病院 整形外科
科長 小田 和孝

札幌徳洲会病院の外傷センターで、3年間マイクロ*修行をして参りました。

切断指の再接着は手術時間も長く、その後のフォロー(病棟管理、リハビリ)も大変なことから敬遠されがちであり、マイクロという技術も必要なことから、当科では十分対応できない状況が続いておりました。

が、今後は断ることなく、可能な限り対応させていただきます。ご紹介ください。

*マイクロサージャリー(微小外科)
おだ かずたか

リレー エッセイ

元気の源

近森病院 8A 病棟

准看護師 山本 和代



皆さんのお家では何飼ってますか。私の家ではミニチュアダックス2匹、フレンチブルドッグ1匹、ウサギが2匹います。特に私が一番可愛がってるのがフレブルのココアです。そのせいか家族の中で私に一番懐いてくれます。

あのクリっとした瞳にペチャ鼻の何とも言えない顔がたまらないんですよ。それに舌を出しながら親父みたいなイビキかいて寝てたり、美味しいそうな食べ物を見るとヨダレ垂らしたりまた、帰りが遅い日には玄関の前で待ってたりと見てて飽きないぐらい仕草や表情が沢山あってそれがまた可愛くてたまらないので



す。まさにブサカワです!

ただ、この犬種は他の犬に比べて病気になりやすく今まで数えきれないほど病院にも通ったりと心配事は絶えません。そんなココアも家に来てはや10年経とうとしています。これから先何があるかわからないけ

ど沢山の愛で可愛がっていきたくと思います。

そんな可愛いココアは私の癒しでもあるし無くてはならない存在で元気の源です。皆さんも是非、飼ってみて下さい。可愛いですよ。

やまもと かずよ

私の趣味

癒しのメダカ

近森オルソリハビリテーション病院 外来 看護師 平尾 香保



水の中をスイスイ泳ぐメダカ、小さくて可愛く観ていて飽きません。

みなさん、何種類のメダカがいるのかご存じですか？調べたところ500種類以上いるそうです。私は現在6種類のメダカを飼育しています。飼育方法は屋外で睡蓮鉢に砂利



をしき、睡蓮・水草・タニシ・エビを入れビオトープを作りメダカを飼っています。

す。砂利は市販の赤玉やメダカの砂利などたくさん試してみましたが、水の濁りなどが気になり、最後に行き着いた砂利は室戸岬の海の砂利！波にもまれ適度に砂利の角は取れ、水洗いしても適度の海水も含んでいるためメダカが元気に暮らせます。

そのため、定期的に室戸岬に出かけては砂利を持ち帰ってきています。餌は市販のメダカの餌を何種類かブレンドしてメダカが痩せすぎないように注意。水はカルキ抜きをした方が良いと言われていますが、高知

の水は大変きれいでカルキ抜きをしなくても大丈夫です。

お世話すればするほど、産卵し稚魚を育てる楽しみが出来ます。高知のきれいな川ではまだ野メダカが生息しています。母が川で捕ってきたメダカがきっかけで飼い始め早10年。休日には、川にメダカを捕りに行ったり、砂利を取りに遠出したり、家族共通の楽しみを広げてくれているメダカでもあります。

ひらお かほ

ニューフェイス

- ①所属②出身地③最終出身校
④自己アピールなど



おだ かずたか①整形外科科長②高知市③高知大学医学部④札幌徳洲会病院外傷センターで3年間修業し戻ってきました。趣味は手術、美味しいものを食すこと。

小田 和孝

人の動き 敬称略

2020年1月の診療数 システム管理室

近森会グループ	
外来患者数	17,273人
新入院患者数	982人
退院患者数	887人
近森病院（急性期）	
平均在院日数	14.80日
地域医療支援病院紹介率	84.11%
地域医療支援病院逆紹介率	317.37%
救急車搬入件数	534件
うち入院件数	296件
手術件数	433件
うち手術室実施	278件
うち全身麻酔件数	196件

● 2020年1月 県外出張件数 ●
件数 28件 延べ人数 40名

おめでとう

職員対象 第102回

チカモリ・シネマクラブ

編集室通信

先日、「往年の大スターがくる！」というので母とともに観に行きました。山本リンダ、加藤茶 & 仲本工事の“こ～茶バンド”、“フォーリーブス”など、ちびまる子ちゃんの時代のスターたちが目の前に。手を一切抜かないリンダに感激し、ドリフターズ第6人目の男こと“すわ親治”を30年ぶりに思い出すなど、楽しいひと時となりました。(須)

元気の素は魔法の言葉

「細胞検査士」試験、突破しました！

充実している。公私とも精いっぱいやれているという自分なりの納得があり、適度な緊張感もある。

この感覚を検証してみると、なんとといっても「4回目の挑戦で、やっと受かった細胞検査士」資格の比重が大きいようだ。細胞の変化から癌細胞を診断し、医師に報告。念願だったこの役割をやっと果たせるようになったという達成感が「生活の張り」にも繋がっているらしい。

近森会では7人目の細胞検査士、中には一発合格した後輩もいるし、全国平均合格率2割程度の超難関で2回落ちたら諦める人がいるとも聞く資格である。

真由さんが挑戦を思い立ったのは上の子が2歳、下は生後6カ月の育児中。仕事を休んでいる間に頑張りがたかったが、「慣れない猛勉強（笑）」が祟ったのか、肺炎で40度の熱が2週間続く試練にも遭った。一年しっかり勉強しないままの初挑戦で、「そう甘くはないと思知らされた」。が、諦める気はサラサラなかった。

これが「島崎真由の日常」です

13年前にこの資格を取った橘知佐副技師長には、「きっと受かると信じている私の根拠のない自信を不思議がられてました〜（笑）」と、屈託がない。で、その辺り橘副技師長からは、「仕事に子育てに地域活動も頑張る。しかも身なりもピシッ。そのパワーが不思議。でも、そんなパワーの島崎さんだから、必ず合格するとは信じてました！」と、温かい、信頼がにじみでるコメント。

スマホ手帳の予定はギューギュー詰め。学校のPTA副会長に、朝は交通安全の旗振り、その他、とにかく、多くの人がむしろ避けたがるような

各種ボランティアに、「進んで手を挙げる」よう決めているフシもある。

積極性、前向き、エネルギッシュなど、その辺りの元気言葉を全部ひっくるめると「島崎真由の日常になる」ような印象が強い。

なぜ、そこまで…。その積極性は、不思議がられるほどの勢いがあるようだ。実にエネルギッシュ、溢れるパワフルオーラ。

なぜ…。「根拠のない自信」が、いつも背中を押してくれているという感覚、これが自身の在り方を納得させるキーワードになるらしい。

いつも実家の母親が言ってくれていた「真由なら出来る、きっと何とかなる」。この魔法言葉を常にシャワーのように浴びてきた。

そういえば、周りの出来事への対処は常に上機嫌だし、原則やりたがり屋（笑）でもある。ひたすら明るい元気の素は、このシャワーのチカラなのかもしれない。

細胞検査士への挑戦で打ちひしがれているとき、「地域の消防団募集」が目飛び込んできた。即応募。「火事場にも出動したいですっ！」とも宣言した。募集11人の枠で11人目に滑り込めたが、偶然その中に自身の妹が入っていたというのも、育った家庭を彷彿とさせるエピソードではないだろうか。

勧めるがダメは言われたことがない

幼児教育の専門家だった母親は、定年を過ぎた今も社会人の保育・幼児教育の資格が取れる学校立ち上げに奔走しているし、父親は定年後ヤギ牧場で働き始め出産ラッシュに嬉しい悲鳴…etc。

さて夫の両親、まず義父は地域の消防団副団長その他

▼念願だった細胞検査士、張り切ってます



の功績で叙勲、実母と同じく幼児教育の専門家だった義母もすぐ隣りに住み、「私の至らない点をいっぱいカバーしてもらえる本当に有難い存在。もちろん『嫁として』気は遣ってますよ（笑）」というのだが…。

「勧めるが、ダメは言われたことがない」と総括する実家の教育方針は、孫育てにも共通していて、夫の両親ともに、「子ども達のことをすぐく考えていることが、ひしひしと伝わる接し方」をしてきている。

「消防団活動の内容と、仕事の研修も頑張っているという話を聴いてほしかったんですけど…」。

「あっ、周りのスタッフに恵まれている話も、まだ途中なんです…。熱のこもったそれらの報告も含め、瞬間に予定のインタビュー時間は過ぎてしまった。



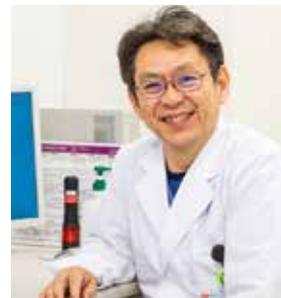
▲地域の消防団で訓練中



我が家のオフ

がん治療サポートチーム動き出しました

近森病院 総合診療科 部長 浅羽 宏一



タッグを組んで、患者さんのがん治療をサポートします。

専門職種がチームでサポート

近森病院ではがん化学療法は点滴センターで行われ、チームで診療しています。外科の田中先生が優しい目で患者さんの病状を厳しく診る傍ら、薬剤師の池澤さん、宮崎主任（がん薬物療法認定薬剤師）、田中さんが、適切な抗がん剤治療を助けています。

がん化学療法看護認定看護師の清遠さん（お母さんの様な）、山本主任（お姉さんの様な）、笑顔が素敵なクラークの橋村さんが点滴中の患者さ

んに声掛けすることによって、些細な体調の変化を見つけて主治医に報告しています。

美味しくご飯を食べるために

ご飯が食べられない、倦怠感・吐き気は患者さんにとってとても辛い症状です。そこで、患者さんが美味しくご飯を食べ元気をキープ出来るように、漢方薬で患者さんを元気にし、吐き気、倦怠感などの抗がん剤の副作用を軽減する役割の浅羽と、食事面で患者さんの栄養管理をする

管理栄養士の内山副部長、田部さん、岩本さん、和田主任が新しくチームに加わりました。

これからは一人暮らしのがん患者さんにおせち料理を差し入れる優しい清遠さんと

元気をキープして欲しい

私事になりますが、私は母を乳がんで亡くしました。手術後11年目に肺に転移が見つかりました。化学療法が開始され、私は母に漢方薬を処方しました。その後7年生き、亡くなる日の朝まで元気でした。私の様な経験は全国に沢山あり、5年前に日本がんサポーターケア学会が誕生し活動しています。

抗がん剤治療を続けながら美味しくご飯を食べ、元気をキープして欲しいという思いからがん治療サポートチームが動き出しました。次回はがん患者さんの食べるべきお食事について解説します。

あさば こういち



オリバー・ビヨルクステン先生の思い出

近森病院総合心療センター 精神科 田村 雅一

昭和57年の夏、彼は当時、南カリフォルニア大学医学部で精神科教授であったが、高知医科大学（現高知大学医学部）の客員教授として夫人とともに来高され、半年間高知で過ごされた。その間、高知医科大学と同時に近森病院精神科へも週1回来院され、ぼくの診察をみたり精神科の問題を話し合ったり職員に講義をしてくれたり、あるいは患者さん達と暮を楽しんだりしていた。

その時、ぼくの心に残った印象の一つに彼の診断能力の高さがあげられる。ぼくは精神科の診察では言葉を理解する能力が絶対的に重要であると思っていたが、彼は日本語が全く出来なかったにも拘わらず、次々と訪れるぼくの患者の診察をみて、

ほとんどすべての患者の病名と状態像を正しく言い当てた。その出来事はぼくの彼に対する評価を一気に高めることとなった。

彼等夫妻のその時の高知での6か月間は彼等にとって非常に印象深いものであったらしく彼等は30数年後に再び高知に来て今回、2年間高知で暮らすことになった。

彼は高知と近森病院精神科をこよ

左から2人目がオリバー先生、前列中央筆者



なく愛しており、前回と同様週1回、先生方へのレクチャーやスタッフへの講義等を通して仕事も楽しんでおられた。また、彼は自転車で高知のあちこちを訪れ私たちより高知に詳しくなっていた。彼はこの度高知を離れることとなったが、彼が開いたお別れ会には大勢のスタッフが出席し別れを惜しんでいたのが印象的だった。 たむら まさかず